

広報

おばま 10

2012



《表紙》

小浜中学校の3年生28人が赤ちゃん抱っこ体験をしました。これは命の大切さを学ぶ総合学習の一環として、毎年実施されているもので、生徒らは、「小浜助産師会うぶこえ」のメンバーから指導を受けながら、生後3～8カ月の赤ちゃんとのふれあいを楽しみました。

(9月12日)

【特集】 県立高校若狭3校が統合再編へ

平成25年4月～

県立高校若狭3校が統合再編へ

～若狭高と水産高が統合。東高は総合産業高校に～



平成25年4月スタートを目標に、足かけ3年にわたって議論を進めてきた若狭地区の県立高校再編問題。県教育委員会は、昨年12月、現在の3校を2校（若狭高校と若狭東高校）にすることを決定しました。これにより、来年4月には、小浜水産高校は若狭高校に統合され、若狭東高校は総合産業高校として新たなスタートを切ります。

今月号では、再編の経緯やその概要、今後の再編計画などについてお知らせします。

■問い合わせ 県教育庁高校教育課

☎0776・20・0568

1期生には夢や希望を持って高校生活を送ってほしい



県教育委員会教育長
林 雅則さん
はやし・まさのり

再編に当たり、まず、若狭高校は、「普通科」、「文理探究科」、「海洋科学科(仮称)」を持つ学校として、生徒ひとりひとりの進路・進路実現を目指します。「海洋科学科(仮称)」では、県立大学との連携を深め、新たな海洋教育も展開しながら伝統ある水産教育を継承していきます。若狭東高校では、地域企業との連携を深め、地域の将来を担う若い力を育てていきます。農・工・商の学科がそろった総合産業高校となることで、若狭地域の職業教育の中枢として選ばれる学校を目指します。

適正な学校規模の確保は、勉強、部活動、学校行事など、学校全体の活性化には不可欠です。2つの高校は、これまでの伝統を生かしながらそれぞれの個性を磨き、来年度の開校に向けて、より良い学校を目指して頑張っています。

来年度入学する生徒の皆さんは、第1期生として、夢や希望を持って充実した高校生活を送り、在校生とも協力しながら成長していくことを切に願っています。

止まらない生徒数の減少

年々中学生の数は減少し、定員を維持するのが困難になっている県立高校。加えて、学習内容と進路にミスマッチも生じており、現在、幅広いニーズに対応した新たな教育体制づくりが求められています。

なぜ
再編
なのかー



【本科】 (人)
年度 H 21 H 22 H 23
志望者数 47 48 43
募集定員 90 90 90
入学者数 79 77 75

【専攻科】 (人)
年度 H 21 H 22 H 23
募集定員 約10 約10 約10
入学者数 1 4 4

※志望者数は、前年9月実施の進路希望調査結果による

また、若狭東高校農業科(産業技術科、生活科学科)では、近年、卒業生の農林業への就職者が極めて少なく、学習内容と進路とのミスマッチが生じており、地域の産業界や生徒の現在のニーズに対応した新たな教育体制づくりが必要になっていきます。

【こ】 のように再編整備は、生徒数の減少に対応するとともに、生徒がより良い環境で、より充実した高校生活を送ることができる教育環境を提供するものです。

若狭地区3高校の再編整備により、今後、教育環境が改善されるとともに、教育の質が向上し、地元や国内外で活躍できる人材が、これまで以上に育成されることが期待されます。

【こ】 れまで、若狭高校と若狭東高校では、生徒数の減少に普通科の定員数を削減することで対応してきたため、普通科系学科と職業系専門学科の定員割合がほぼ1対1と、ほかの地区に比べて普通科系学科の割合が低くなっています。なお、県全体での普通科系学科の割合は平

表1 小浜水産高校の定員、入学者数の推移

年度	H 21	H 22	H 23
志望者数	47	48	43
募集定員	90	90	90
入学者数	79	77	75

年度	H 21	H 22	H 23
募集定員	約10	約10	約10
入学者数	1	4	4

均で約66%となっています。今後も現在の体制を維持することを前提として、普通科系学科の定員数の削減を続けると、平成38年には、普通科系学科の定員割合は約40%まで低下することが予想されます。生徒の普通科への高い進学希望に応えるため、早急に学校体制を見直し、普通科の定員割合を引き上げる必要があります。

図1 若狭地区の中学校卒業生数(見込み含む)



【中】 学校卒業生数は、平成元年3月の1004人から平成23年には668人まで減少(約33%減)しました。また、平成38年には521人まで減少(約48%減)する見込みとなっています(図1)。今後、生徒数の減少が見込まれることから、高校の適正規模の確保を図る必要があります。

【こ】 うした中においても、本県唯一の水産・海洋教育を行う場の確保は重要であり、再編整備の中で、若狭地域の特色ある食文化や、県立大学海洋生物資源学部、県栽培漁業センターなど各種研究機関が近接する立地条件を生かし、魅力ある海洋・水産教育の展開を図る必要があります。

【小】 浜水産高校では、近年、志望者数や入学者数が募集定員に満たない状況が続いています。また、専攻科についても、毎年10人程度の募集に対して、入学者は1~4人程度と少なくなっています(表1)。教員数の確保や生徒への教育効果、学校の活力維持の観点から考慮すると、今後も生徒数の減少に定員や学科数の削減で対応することは困難です。

【再編決定までの軌跡】

H 21・10・13	▼第1回高校教育懇談会(地区の現状など)
H 21・12・21	▼第2回高校教育懇談会(各高校の現状と課題)
H 22・5・20	▼第3回高校教育懇談会(再編整備の方向性提示)
H 22・7・23	▼水産高校教育に関する検討会議
H 22・9・9	▼若狭地区高校再編に関する研修会
H 22・11・1	▼中学校関係者などとの意見交換会
H 23・7・8	▼高校再編に関する保護者などとの懇談会
H 23・11・28	▼第4回高校教育懇談会(再編整備の2つの方向性を提示)
H 23・12・9	▼若狭地区中学校長との懇談
H 23・12・13	▼若狭地区PTA研修会
H 23・12・14	▼若狭地区教育委員との懇談会
H 23・12・27	▼若狭地区の方向性決定
H 24・2・17	▼2月議会に提示
H 24・3・26	▼県教育委員会で決定

TOPICS

県立大と若狭高が 高大連携協定を締結!



9月12日(金)に、県立大学海洋生物資源学部長、若狭高等学校長、教育関係者などが出席して、海洋生物資源学部と若狭高等学校との間で、高大連携に関する協定が締結されました。

高大連携に関する協定の締結は、日本海側では初めてで、これにより、今後は、高大連携による授業や課題研究など、魅力的で質の高い海洋・水産教育の展開が期待されます。

なお、現在、教育関係者で組織する「高大連携協議会」で、連携の具体的な内容を協議しています。

～市民に街頭インタビュー～

「高校再編について思うこと」

再編はやむを得ないと思うが、来年4月入学の人は大変だと思つ。一方で、若狭高校が県立大学とどのように連携していくかは注目したい。

(50代女性)

過去のデータがなく、受験対策が大変。一方で、集中的な教育が促され、進学率上昇などが期待できる。

(10代男性)

「水産高校は閉校。東高校は総合産業高校に」この2校の卒業生は、母校に愛着を持っているが、そのルーツがなくなる。寂しいし、残念。

(60代男性)

部活動に関しては、3校から2校になることで、強い選手が集まりやすくなり、より活性化すると思う。

(30代男性)

進学校と職業校に明確に区分され、中間的な学力の人はどうすれば良いのか分からない。

(40代女性)



若狭高と水産高が統合。 東高は総合産業高校に

来年4月の再編で、小浜水産高校は若狭高校に統合され、新たに「海洋科学科（仮称）」が設置されます。また、若狭高校の職業系学科（商業科、情報処理科）は若狭東高校に統合され、若狭東高校は総合産業高校として新たなスタートを切ります。「再編整備のイメージ」「再編整備後の新体制の姿」はそれぞれ図2、表2のとおりです。

再編整備の主な内容

- 小浜水産高校を若狭高校に統合し、新たに「海洋科学科（仮称）」を設置する。これに伴い、「水産経済科」は廃止され、「食品工業科」は「海洋科学科（仮称）」の中に組み入れられる。
- 若狭東高校農業科、工業科と若狭高校商業科を統合再編し、若狭東高校を母体とした総合産業高校を設置する。
- 普通科系学科については、若狭東高校の普通科を廃止し、若狭高校に集約する。
- 小浜水産高校の敷地・校舎などについては、新たなカリキュラムに基づき校舎・施設などの利用計画を踏まえた上で、引き続き水産教育に活用する。
- 大型実習船については廃止することとし、今後のカリキュラム検討を踏まえ、小型船による対応や、他機関の船舶を利用した乗船実習の在り方などを検討していく。
- 総合産業高校および若狭高校海洋科学科（仮称）は平成25年度に開校・開科するものとする。

表2 再編整備後の新体制の姿

【現行：平成24年度】総定員数：567人

高校名	学科名	1学年当たりの学級数	1学年当たりの定員数	備考
若狭高校 (293)	普通科	5	181	
	文理探究科	2	50	
	商業科	1	31	商業科
	情報処理科	1	31	
若狭東高校 (184)	普通科	2	60	
	産業技術科	1	32	農業科
	生活科学科	1	32	
	電子機械科	1	30	工業科
	電気科	1	30	
小浜水産高校 (90)	海洋科学科	1	30	水産科
	食品工業科	1	30	
	水産経済科	1	30	

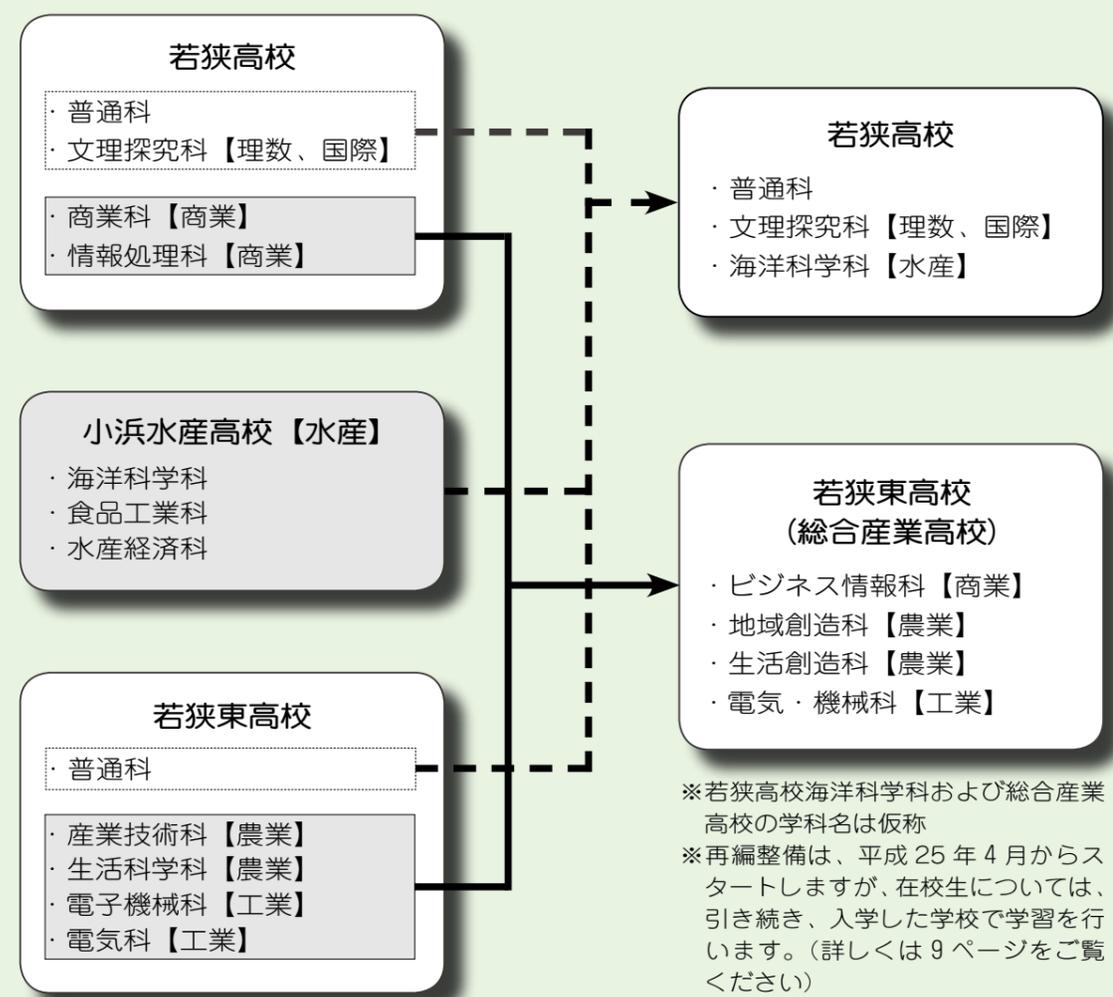


【再編後：平成25年度】総定員（見込）数：500人

高校名	学科名	1学年当たりの学級数	1学年当たりの定員数	備考
若狭高校 (320)	普通科	6	220	
	文理探究科	2	50	
	海洋科学科	2	50	水産科
若狭東高校 (180)	ビジネス情報科	2	60	商業科
	地域創造科	1	30	農業科
	生活創造科	1	30	
	電気・機械科	2	60	工業科

※若狭高校海洋科学科および総合産業高校の学科名は仮称
 ※再編後の総定員（見込）数は、地区の中学校卒業見込数から推計した数
 ※学級数、定員数については仮の数字。生徒の志望動向などによって、変更されます

図2 再編整備のイメージ



10月に高校説明会を開催

来年4月のスタートに向けて、現在、各高校に準備委員会が設置され、カリキュラムや教育目標の検討が行われています。また、生徒や保護者、学校関係者などへの周知を図るため、10月には高校説明会が開催されます。

「再編整備による新体制移行までのスケジュール」は表3のとおりです。



表3 再編整備による新体制移行までのスケジュール

区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
若狭高校	普通科	統合				
	文理探究科					
	商業科		2、3年生 在籍 【募集停止】	3年生在籍		
	水産科	統合	1年生在籍	1、2年生 在籍	1～3年生 在籍	
小浜水産高校		2、3年生 在籍 【募集停止】	3年生在籍	平成27年3月 水産高校閉校		
若狭東高校	普通科		2、3年生 在籍 【募集停止】		3年生在籍	
	農業科					
	工業科					
若狭東高校 (総合産業高校)	統合	《開校》 1年生在籍	1、2年生 在籍	1～3年生 在籍		

※再編整備にあたっては、各学校・対象学科の募集停止と同時に新高校・新学科の募集を行います。なお、対象高校の在校生については、原則、卒業まで、入学した学校で学習を行います

探究心を育む実践教育の実現

若狭高校では、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) を通じた実践教育により、国際的に活躍できる文・理系人材の育成を目指します。また、新たに設置される「海洋科学科 (仮称)」および若狭東高校では、地域の事業者や研究機関と連携した実践的な教育を展開し、創造性あふれる人材の育成に努めます。
※未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとして、理数系教育の充実を図る取り組み



若狭高校

～「海洋科学科 (仮称)」を新設し、県立大学と連携～

- ・普通科では、進路別・選択教科別クラス編制や専任教諭の配置など、個々の進学志望に対応したきめ細やかな指導を行うとともに、情報・経営など、商業系大学への進学コースを設置し、より幅広い進路ニーズに対応します。
- ・スーパーサイエンスハイスクール (SSH) を活用した学校設定教科「探究科学」の設定や国際性育成プログラムの実践により、国際的に活躍する理数系人材や科学技術に関わる政策立案などに寄与する文科系人材の育成を目指します。
- ・水産科については「海洋科学科 (仮称)」を設置し、県立大学海洋生物資源学部との連携による授業や課題研究など、魅力的で質の高い海洋・水産教育を展開します。また、普通科教育を重視し、海洋・水産系、農学系など、自然科学系の大学進学に対応します。
- ・水産分野のみならず地域のさまざまな業界で広く活用できる人材を育成するため、地域の事業者などと連携して水産物の貯蔵、加工、流通、販売まで幅広く学習できる実践教育を展開します。また、海洋資源や船舶に関する知識・技術の習得、資格取得を促進します。

若狭東高校 (総合産業高校)

～農業、工業、商業を軸に、産業のプロを育成～

- ・農業、工業、商業の3つの専門学科を基本に、さまざまな産業に関する学習ができる教育体制を整備します。
- ・地域の企業、事業者と連携した実践教育やそれぞれの分野における資格取得の推進など、職業教育カリキュラムを充実し、地域の産業界のニーズに応えられる産業人材を育成します。
- ・商業科は「ビジネス情報科 (仮称)」を設置し、簿記や商品流通、語学、情報処理など基本的なビジネススキルをはじめ、若狭の産業や観光について深く学習し、地域に根ざした商業教育を展開します。
- ・「地域創造科 (仮称)」では、地域の事業者や研究機関などとの連携により、実践的で先進的な農業技術の習得、若狭の特産物の加工から商品開発・販売まで総合的に学習し、経営感覚を養うための実践教育を行います。また、地域の開発・保全に関する知識・技術の習得、資格の取得を促進します。
- ・「生活創造科 (仮称)」では、介護・保育などの福祉分野をはじめ、暮らしに関する幅広い知識・技術を習得するとともに、若狭の伝統的な食文化の継承や創造を担う人材育成を目指し、食に関する幅広い教育を行います。
- ・工業科は「電気・機械科 (仮称)」を設置し、電気・機械分野における基礎的な知識・技術の習得とともに、さまざまな資格取得に向けた専門教育や、地域の企業などと連携した実践的な教育を展開します。

4月開校に向けて準備中

現在、教員を中心とした準備委員会を各高校に設置し、地元産業界やPTAなどからの意見を踏まえながら、学科・コース・カリキュラムの具体的な内容をはじめ、校名・部活動などの決定、入学者選抜などの開校準備を進めています。
また、水産高校が平成27年3月で閉校になるのにもない、実習室など使用しなくなる施設の活用方法などについても検討中です。

10月上旬に高校説明会を開催

10月4日、9日に市内の2つの中学校で、生徒や保護者、学校関係者を対象とした高校説明会が開催されます。

【高校説明会開催要領】

▼とき、ところ
①10月4日(木) 小浜第二中学校、
②10月9日(火) 小浜中学校

▼開催時間
①13時05分～15時30分
②13時30分～15時40分

▼内容
各高校の教員が中学校に出席して具体的なカリキュラムなどを説明します

▼その他
平成25年度の募集要項は10月下旬に公表されます